

DJ Magazine 8月号(2019)

ドキュメンタリージャパン

vol.41 2019.7.30

映像制作会社ドキュメンタリー
ジャパンが今月お届けするテレビ
番組や映画のお知らせです。



地球(アース)トラベラー

『グレートヒマラヤトレイル 遥かなる天空の道』

放送予定: NHK BSプレミアム 8月24日(土) 午後7:30~9:00/Part1
9月21日(土) 午後7:30~9:00/Part2



出演者
ナレーター/石丸謙二郎
声の出演(トーク)/市毛良枝/石井邦彦/中島健郎

ネパール北部に、「グレートヒマラヤトレイル」と呼ばれる1本の道がある。全長1700キロ、標高8000mを超える名峰の数々を望みながら行く、天空のトレッキング・ルートだ。この道に、登山家でありカメラマンでもある2人、石井邦彦と中島健郎が挑む。旅の目的は、誰も見たことのない映像を撮ること。ドローンやゴープロを駆使し、未だ撮影されたことのないアングルからの映像を求めてトレッキングを続ける。苦難の果てに2人を待ち受けていたのは、360度に広がる、世界で最も壮大な景観だった。(part1は、マカルーBCからアンプラプツァの峠越えまで。)

「夜明け前の暗い岩壁を攀じり、ガチガチに固まったブルーアイスにピッケルを打ち込みながら氷壁を駆け上り、標高6000メートルの山頂から、朝焼けのヒマラヤ山脈に向かってドローンを飛ばす。スーパーマンな山岳カメラマン、石井邦彦さんと中島健郎さんが2ヶ月間ヒマラヤを撮りまくりました。その目的は「誰も見たことがない画」を撮り、伝えること。気恥ずかしくなるほど愚直でシンプルではありますが、それがテレビ=「テレビジョン」の原点ではないかと思い知らされたロケでした。命がけで捉えた、ヒマラヤが光り輝く瞬間を是非ご覧下さい。

チーフ・ディレクター 山田和也



つぶやき

今回は途中参加だったので、1ヵ月半先行していたスタッフと行動を共にできるか不安だったが、やはり5000m前後の高度順化が追いつかず、暫くチームの足手まといに。終盤ようやく高所に慣れてきて、少しは貢献できたかな?今回は私の映像は添え物で、若くて屈強な山岳カメラマン二人のドローンや特撮映像をお楽しみ頂ければと思います。

カメラマン 金沢裕司



つぶやき

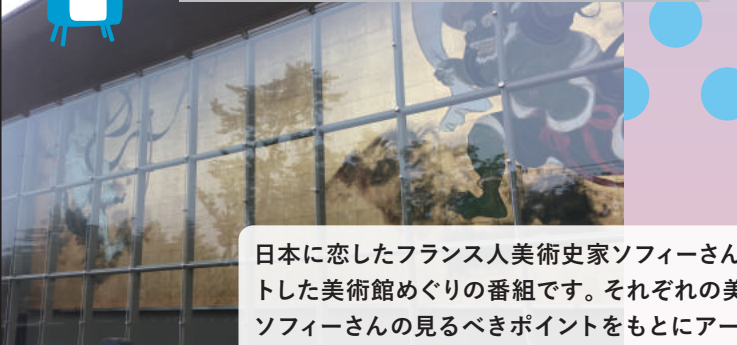
登った山は高尾山だけ。かなりの潔癖症の自分が人生でこんな撮影に参加するなんて思ってもいませんでした。いざヒマラヤに行くと約3週間、シャワーにも入れず、下着以外の服は毎日着たまま、途中不覚にも漏らし、当初はトレッキングにもついていけない悲惨な状況でした。「何が好きでみんな登山なんかをするんだろう…」と疑問を持って悶々と過ごす日々。しかしそんな矢先、石井さんと健朗さんに連れられて見せてもらったのは価値観が揺さぶられるようなヒマラヤでの体験の数々でした。ぜひ番組で堪能してください。

ディレクター 可香谷慧



『フランス人がときめいた日本の美術館』

放送予定: BS11 毎週金曜 午後8:00~8:58
MX 毎週木曜 午後8:00~8:58

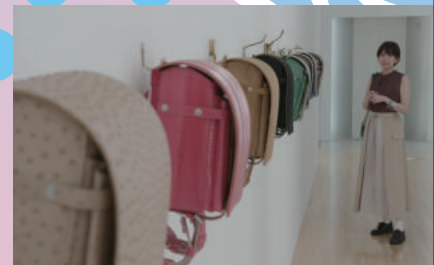


日本に恋したフランス人美術史家ソフィーさんがセレクトした美術館めぐりの番組です。それぞれの美術館で、ソフィーさんの見るべきポイントをもとにアートを楽しみ、新たな発見とときめきを感じる1時間。さあ、ナレーター椎名桔平さんの誘いで極上の旅に出かけましょう。



8月2日(金)&8日(木)
豊田市美術館
(愛知県豊田市)
出演 野村麻純

8月23日(金)&29日(木)
岡田美術館
(神奈川県足柄下郡箱根町)
出演 志南真弓子



8月30日(金)&9月5日(木)
富山市ガラス美術館
(富山県富山市西町)
出演 近衛はな

News

第35回 ATP賞テレビグランプリ受賞のお知らせ!!

ドキュメンタリー部門 優秀賞

2018年11月10日放送
NHK
ETV特集「写真は小さな声である～ユージン・スミスの水俣～」
C:井手口大騎 ダグラス
D:木村直人 P:橋本佳子



ユージンの残像を探し求めた日々は、苦しくもあり、幸せでした。取材中、アメリカで発見されたテープから。「世界はひどい状況だが、ただ悲観するのではなく、私たちにはまだ希望があり、その可能性を信じて歩いていくべき。写真は私の人類を信じる心の表れです」。ユージンはこれからも私の行き先を示唆してくれる大切な存在となりました。
(ちょっと格好つけすぎでしょうか?)

ディレクター 木村直人

奨励新人賞

ディレクター 押田幸
2018年4月22日放送
テレビ朝日
テレメンタリー2018「ボンドの家 女性保護シェルターの半年」
C:門脇妙子 他 D:押田幸 P:新津総子

ボンドプロジェクトの橋ジュンさんから「女性専用の一時保護施設を作ろうと動いている」と聞いたのは、2017年夏のことでした。それから半年かけて取材した24分の番組。彼女たちは今も必死に、もがきながら生きています。今回の受賞をきっかけに、表面化しづらい女性たちの声が一でも多くの人に届くことを願います。

ディレクター 押田幸

情報・バラエティ部門 優秀賞

2019年3月17日放送
BS朝日
「田原総一郎の全力疾走スペシャル～さらば平成、新元号ニッポンを変える～」
C:高野大樹 他
D:長谷川三郎/児玉知仁 P:橋本佳子



今回の取材で田原さんから頂いた「絶対に言論の自由を守る。戦争をさせない。意見の違う人間の存在を認める」というメッセージ。その言葉を、しっかりと受け止め、次の時代に伝えていきたいです。田原さん、出演者の皆さん、そしてタイトル通り、全力疾走で一緒に番組を作ってくれたスタッフに心から感謝いたします。

ディレクター 長谷川三郎



記憶に残るテレビ番組

～若者の”テレビ離れ”が進んでも…テレビはやっぱり面白い!
DJ 若手スタッフがおすすめの一本をご紹介します～

第11回 ディレクター 島守央子

番組名 / 日テレ「知ってるつもり?!」(放送:1989年～2002年)

子どもの頃、テレビのチャンネルの主導権を握っていた父に逆らえず、嫌々観ていたはずなのに、すっかりはまってしまったのが「知ってるつもり?!」先日、実家に帰省した際に久しぶりに家族で番組を観た。知ってたはずの人物の知らなかった一面、全く知らなかった人物の人生。人の生き様は心に響く。やっぱり、私は人が好きだ。これからもいろいろな人と出会い、心を通じていきたい。(オススメは、高橋竹山、山本周五郎、愛新覚羅溥儀・浩の回です。)



制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です! 詳細はドキュメンタリー日本のHPまで。

編集後記

子連れで関西の実家まで帰省した時のこと。東京～京都間の新幹線、1歳と5歳の子供を連れての2時間半はなかなかスリリングで母としては気が抜けない時間。幸いご機嫌は良いものの、ちょっとうるさいかな…とヒヤヒヤしていた時、通りがかった中年女性がいきなり私の手に何かを握らせた。恐る恐る手を開くと、そこにはレシートで折った小さなカエル(お尻を押すと跳ねる!)が5匹も。子供たちは大喜びでびよんびよん飛ばして楽しませてくれました。粋なプレゼントに感動しつつ、私も折り紙上手になりたい!と思いました。(S.N)

Design by HARIMA koutarou